

ほらーの花巻

2020
1
No.263

特集

JA県下統一誌面
農業×スポーツ



食と農の創造を通じて人と人が つながる地域社会をつくる



代表理事組合長 高橋 勉

あけましておめでとうございます。組合員や利用者、そのご家族の皆様方に、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

さて、今年も「子年」です。ネズミは多産であることから、子宝に恵まれ「子孫繁栄」が期待される年と言われています。少子化により日本の人口は減少していますが、「子年」にあやかり人口が増加に転じるよう希望するところです。人は新たな年を迎えると、物事が好転することに期待したり願いを込めたりします。日本経済の発展や農業生産拡大など地域振興も含めて諸々の願をかけてみようではありませんか。

そして、今年も「東京オリンピック・パラリンピック」が開催されます。日本人選手の活躍と、世界中から観光客が訪れることによる大きな経済効果に期待をするところです。表彰式の際にはメダルとともに、岩手県産のリンドウをはじめ多くの花が贈られると耳にしています。当JAの花や岩手県の花を全国にPRできることは、生産者のみな

らず岩手県民の誇りでもあり、花栽培の振興がますます期待されます。

そのような中で、昨年頻発した台風は甚大な土砂災害に留まらず、農畜産業にも多大な損害をもたらしました。また、海水温の上昇は漁業にも大きな影響を及ぼしています。その対策を講じるべく、県・国会議員を通じ支援を要請しています。加えて、去る1月1日に発効された日米貿易協定により米国の農畜産物が大量に輸入されれば、その影響は大きく、食料の安全保障と持続可能な農業を目指している「食料・農業・農村基本計画」に大きな懸念が生じます。JAグループとして農業振興を国に要請しながら、食料自給率の向上や農家組合員の所得増大に努めてまいります。

さて、今年も第4次中期経営計画・営農振興計画の中間年度を迎えます。基本目標の一つである「農家組合員の所得増大と農業生産の拡大」に向け更なる活動が求められています。持続可能な農業

を実践するために、地域事情に則した品目の生産振興と営農指導体制の再編で、目標の達成に全力で取り組みます。

取り組みの一環として、JA管内の水田農業の効率的な生産基盤の充実を図るために設立された、100を超える農業生産法人などに向けて、「いわて型野菜トップモデル産地創成事業」を利用したピーマン・タマネギ栽培などによる園芸振興を引き続き提案していきます。また、法人などから要望があった労働力確保対策として、昨年から開所している無料職業紹介所「アグリワーク」の対象地域をJA管内全域に展開するよう進めています。さらに、花き部会と一緒に花栽培は女性や高齢者の労働力を活用できますので、今後の発展が期待される分野です。

JA経営の柱の一つである信用事業は、マイナス金利が大きく影響し、収益構造が激変しています。組合員主体の協同組合運動の展開と、安定した経営基盤確立強化との狭間で、今般実施する支店や営農施設の再編について、組合員から貴重なご意見やご提言を賜りました。運営にあたっては職員を効果的・効率的に配置し、「出向く活動」の強化・充実を図るほか、移動金融店舗車も導入・運行しますので、よろしくお願い申し上げます。

4万人あまりの組合員がいる中で、正組合員がかるうじて半数以上を占めておりますが、准組合員が増加傾向にあります。また、集落営農組織や農業生産法人の設立により組合員やその生活の多様化が進み、JAへの結集力が年々弱まっています。一方で、農家組合は農協運動の一番の基礎組

子の張り子

今月号の表紙を飾っているのは、「子の張り子」です。豊かな文化を育み、古くからの伝統を守り伝えている「小田島民芸所」の職人が、和紙を使い一つひとつ手作業で丁寧に作りあげています。

十二支は、遠い昔から人間社会に欠かす事の出来ない神様です。人の運勢を12種類の干支に託して時を刻み、福運を運んでくれるありがたい神として私たちには縁の深い結び付きがあります。新年を迎える準備として、その年の守り神である干支の人形を飾る事で、1年間家を守ってくれると言われています。



■小田島民芸所 花巻市材木町10-20

今年もよろしく
お願い申し上げます

- 会長理事 阿部 勝
- 代表理事組合長 高橋 勉
- 代表理事副組合長 島津 秀三郎
- 代表理事専務 伊藤 清孝
- 常務理事(金融・共済担当) 長原 典夫
- 常務理事(営農・健康福祉担当) 佐藤 力夫
- 新田 実夫
- 熊谷 克
- 熊谷 義
- 藤池 正
- 藤池 政
- 高橋 弘
- 菅原 一
- 菅原 光
- 高橋 雄
- 高橋 司
- 菅原 彦
- 菅原 信
- 加藤 勝
- 小田島 友衛
- 菊池 正
- 菊池 志
- 吉田 春
- 菊池 孝
- 石川 勝
- 石川 隆
- 安藤 清
- 安藤 正
- 本館 博
- 本館 子
- 高橋 博
- 高橋 子
- 太田代 良
- 太田代 市

- 理事 佐々木 重
- 理事 菅野 寛
- 理事 藤本 一
- 理事 松田 富
- 理事 川崎 勇
- 理事 小森 裕
- 理事 佐々木 久
- 理事 鎌田 春
- 代表監事 佐々木 幸
- 常勤監事 三浦 正
- 監事 高橋 清
- 監事 久保 純
- 監事 照井 重
- 監事 柳谷 敬
- 員外監事 同

ぼらーの花巻 CONTENTS

●No.263 / 令和2年(2020)1月号

02 新春のごあいさつ

04 特集 JA県下統一誌面
農業×スポーツ

08 ぼらーのNEWS ●地域の話

10 あぐりネット

13 かがやく女性部 / 未来を拓く協同組合

14 Information ●理事会だより / 監事会だより

16 私が先生あなたも先生 ●編集後記



いままつ かずき
今松 一貴さん (23)
 [岩手町一方井]
 【経営規模】
 水稲10ha、ピーマン30a

JA新しいわて

農業のこと
 実家の農業を継ごうと大学卒業後に実家に戻り、昨年の4月から親を手本に農業をしています。まだ1年目でコツがつかめず忙しい日々ですが、作物が種から芽を出し大きく成長していく自然の力を間近に感じられるのが農業の魅力で、SNSでも発信しています。友人などから、自分が作った米やピーマンを食べて「おいしい」と言われた時はうれしいですね。

スポーツのこと
 小学4年生の時に、姉の影響でホッケーを始めました。中学生から本格的にのめり込み、ホッケーを通して多くの人に育ててもらい、U16、U18で日本代表に、大学の時は日本一も経験させてもらいました。昨年は岩手県代表として国体にも出場しましたが、今後は選手としても続けながら、地元子どもたちにホッケーを教え、次の世代を育てていきたいです。

JAいわて中央

農業のこと
 盛岡市にある(有)サン農園で主に花苗の管理に従事し、栽培計画から出荷までを担当しています。花苗の栽培は温度管理や水やりが難しく失敗もありますが、きれいに花が咲きロスなく出荷できたときはうれしいです。また、昨年は新たに車の中型免許を取得しました。今後は、仕事の幅を広げ、取引先との交流も深めていきたいと思っています。



すずき えり
鈴木 江梨さん (28)
 [盛岡市東見前]
 【経営規模(有サン農園)】
 野菜苗・花苗約50万ポット
 ネギ80a、ミニトマト30a

スポーツのこと
 盛岡市の広報に掲載されていた案内を見て、教室に参加したことがきっかけで、3年前にカーリングを始めました。今は市内のアイスリンクで週1、2回の練習に励んでいます。チームで話し合って作戦を立て、ショットが決まったときはうれしいですね。カーリングを通じて、幅広い年代の人とのつながりが増え、自分の視野が広がったと感じています。



農業×スポーツ

いよいよ今年の夏に開催が迫る東京2020オリンピック・パラリンピック！
 今回の特集では、熱い盛り上がりを見せる「スポーツ」と「農業」を両立して頑張る皆さんの姿を紹介し、その魅力をお伝えします。



おおき のぶひこ
大木 信彦さん (63)
 [花巻市東十二丁目]
 【経営規模】
 水稲18a、畑10aで野菜を栽培(ダイコン、タマネギなど)

JAいわて花巻

農業のこと
 昨年3月まで花巻市役所に勤務し、4月からは専業農家として水稲のほか、少量多品目の野菜を栽培しています。良い農作物を栽培したいと意識するようになってからは、野菜は農業を使わないことを心掛け、連作障害を防ぐために毎年畑を替えながら作付けしています。水稲では、代かきがうまく平らにできないことや水はけについてなどの悩みが尽きませんが、人並みにやっていたらと思います。

スポーツのこと
 子どもの頃から足が速く、中学・高校と陸上部に所属していました。現在は花巻市内の陸上競技場で週に2回、1時間程度体を動かしています。昨年6月に出場した「第39回岩手マスターズ陸上競技選手権大会」では、100mで14秒41の記録を出しました。陸上は自分の最高の力を出し切り、結果としてタイムが出るのが魅力です。今後も「大会に出るぞ!」という気持ちで練習に励み、競技に参加したいと思います。



にいぬま りょうじ
新沼 良治さん(69)
【大船渡市立根町】
【経営規模】
ピーマン4a、ズッキーニ3a

JAおおふなと

農業のこと
教員を定年退職後、就農しました。農業は生徒と同じで手を掛ければ掛けた分だけ応えてくれるのが魅力です。なんだか試されているように感じて、それも面白いです。土づくりには特にこだわり、土壌医検定3級を取得しました。人が口にするものなので、品質の良いものを作りたいです。そして、孫のためにいつか甘いピーマンを作りたいです。

スポーツのこと
小学3年生のときに、叔父の影響で野球を始めました。今は、市外で仕事をしている息子が帰ってきたときにキャッチボールをしたりしています。野球は備えと読みが必要で、とても奥が深いスポーツです。1球で試合が“ガラッ”と変わるので、そこが怖さでもあります。面白さでもあります。監督も経験してきたので地域の子どもたちに野球の基本的なことを教えていきたいです。



ちば ゆうき
千葉 祐樹さん(34)
【奥州市前沢】
【経営規模】
リンゴ1.5ha、水稲70a、
肥育牛2頭

JA岩手ふるさと

農業のこと
北上川流域の肥沃な大地で、リンゴ栽培・肥育牛・稲作など循環型農業を実践し、栽培・肥育管理は主に父が担当しています。リンゴの出荷最盛期になると、家族全員で収穫作業をします。今後は、リンゴ栽培や畜産が盛んな地域なので、代々続いている農地を守っていきたいです。

スポーツのこと
小学2年生から野球を始め、大学まで続けました。子どもが少年野球チームに入団したのをきっかけに、現在は監督として野球に携わっています。野球がうまくなることも大切ですが、仲間との友情や絆も深めてほしいと思っています。今後は野球を通じて子どもの成長を見守りながら、県大会で上位入賞を目指して頑張りたいです。

JAいわて平泉

農業のこと
いつしか「祖父の代から続くイチゴ農家をつぶしたくない」と思うようになり、34歳で就農しました。栽培した作物がそのまま消費者に届くことが農業の魅力だと思いますし、責任ある仕事だと感じています。物作りがとにかく楽しくてたまりません。自分の子どもが「イチゴを作りたい」と思ってくれるような経営ができるように努めていきたいです。

スポーツのこと
小学4年生の時に一関ラグビースクールが開校し、友達を誘ってラグビーを始めました。中学時代は野球をしていましたが、高校からラグビーを再び始め現在も続けています。6月の県民体育大会に向け、春先から仕事の合間に週1回練習します。昨年はラグビーワールドカップが日本で開催され、日本中が盛り上がりました。プレーも観戦も楽しめるのがラグビーの良いところです。



ささき たかひろ
佐々木 貴浩さん(37)
【一関市巖美町】
【経営規模】
水稲4ha、イチゴ5a、ピーマン5a

JA江刺

農業のこと
米農家に生まれ育ちました。現在は奥州市江刺のスポーツ用品店に勤務しながら、農繁期には農作業を手伝っています。米作りの一端ではありますが、自分が手伝い、育てたお米の味は格別です。江刺のお米は香りが高く、炊き立ての香りが抜群です。バレーボールで全国各地を回ることもありますが、故郷のお米のおいしさを誇りに思っています。将来的には米作りの1年の流れや、農機の操作など父から学んでいきたいです。

スポーツのこと
中学からバレーボールを始め、現在は社会人チーム「OSHU LEGENDS」でプレーしているほか、奥州江刺JVC（ジュニアバレーボールクラブ）でコーチをしています。チームスポーツは、人との関わりや、コミュニケーション能力が欠かせません。自分がプレーするのはもちろん、応援することも好きで、教え子たちの試合を見に行くのも楽しみです。今年は山形県でクラブカップバレーの全国大会が開催されるので、出場目指して頑張ります！



おいかわ たける
及川 健さん(30)
【奥州市江刺稲瀬】
【経営規模】
水稲10ha



総代の役割を確認 全地域集し「総代研修会」を開催



「総代研修会」を全地域合同で行うのは初めて

J Aは11月29日、総代が一堂に会し花巻市で「総代研修会」を開きました。各地域の総代や常勤役員、J A職員など約350人が出席しました。高橋勉組合長は「J A経営と今後の戦略」と題して講話。経営環境や今後の戦略を説明し、「やっぱりJ Aがあつて良かったと言われるように、いろいろな情報交換を行い、本音で話し合いをしよう」と呼び掛けました。三浦正寿常勤監事は、日本農業新聞が発行する「総代になったあなたに」を使い、総代の役割を説明しました。

総代研修会は、総代としての見識を深め、J Aへの参画意識を高めることを目的として開催しました。

女性部活動の活性化を目指す 常勤役員・女性理事と意見交換会



高橋組合長(右)の話に耳を傾ける部員たち

女性部は12月11日、花巻市で常勤役員と女性理事との意見交換会を開きました。

各地域の支部長や常勤役員、女性理事など26人が出席。意見交換では、支店統合について使用しなくなる店舗を女性部で気軽に使用して良いか、定期的に開催していた産直活動を今後どのように活動していけば良いのかなどの質問が出ました。特にも、全地域共通で部員減少の課題が挙げられました。

高橋勉組合長は「女性の力、発想の中で事業を展開していくのは大事なところ。活動を盛んにすることが女性部の活性化に繋がる。今後ぜひ活発に活動して欲しい」と呼びかけました。

地元産農畜産物をパワーに! 目指せ全国勝利 全国大会出場校に贈呈

J Aいわて花巻とJ A全農いわては、ラグビーとサッカーの全国大会に県代表として出場する高校に、北上市産米「ひとめぼれ」120kgと県産豚肉1頭分、金一封を贈り、全国での活躍を祈願しました。

12月10日には本店(花巻市野田)で贈呈式を開き、「第99回全国高等学校ラグビーフットボール大会」に出場する黒沢尻工業高校に贈呈。J Aの高橋勉組合長とJ A全農いわての高橋司副本部長が鈴木虎鉄主将に目録を手渡しました。

高橋組合長は「おいしいお米とお肉を食べてパワーを付け、力を十分に発揮して頑張っしてほしい」、高橋副本部長は「岩手のおいしい農畜産物を食べて、持てる力を十分に発揮してほしい」と激励。

鈴木主将は「おいしいお米とお肉を食べて、ベスト8以上を目指して頑張る」と意気込みました。

また、12月18日には専修大学北上高校(北上市新穀



黒沢尻工業高校ラグビー部に贈呈



専修大学北上高校サッカー部に贈呈

地元産の大豆をもっと消費しよう 女性部宮野目支部が豆腐の先生

女性部宮野目支部は12月4日、花巻市立宮野目小学校の3年生53人と地元産の大豆を使った豆腐作り体験授業を行いました。

部員8人が豆腐作りの先生となり、児童たちは水に浸した大豆をミキサーですりつぶすところから豆腐作りを体験。先生から「温度を確認してね」「8の字をかくように混ぜて」などとアドバイスを受け、温度管理やかき混ぜる作業を交代で行い、工程ごとに搾りたての豆乳、おから、出来たての豆腐を食べ、大豆のおいしさを味わいました。

豆乳やおからを食べたことがない児童がほとんどでしたが、「おいしい」「もっと食べたい」とおかわりをしていました。阿部天陽さんは「作り方を知ることができ楽しかった。皆で作ったから、こんなにもおいしく出来たと思う」と笑顔を見せました。



こじるを木綿の袋に入れる児童

J A管内から多数の受賞者 「令和元年度いわて農林水産躍進大会」で表彰



県知事表彰を受ける高橋元組合長

いわて農林水産振興協議会と岩手県は12月20日、盛岡市で「令和元年度いわて農林水産躍進大会」を開きました。同大会では、6部門で表彰を実施。

当J A管内からは、「岩手県農林水産業表彰」「いわて農林水産振興協議会会長表彰」「いわて中山間賞」「岩手県農地・水環境保全向上活動モデル賞」「岩手県アドプト活動モデル賞」の5部門で、7人と7団体が表彰を受けました。

そのうち、高橋専太郎元組合長は「岩手県農林水産業表彰」を受賞。J A経営の健全化に努めるとともに、農家組合員の所得向上と農業経営の安定化に尽力したとして、達増拓也県知事から表彰状を受け取りました。

園芸

今年度の振り返り 野菜部会が実績検討会を開催

◆ピーマン

12月10日、JA総合営農指導拠点センター（花巻市野田）で「令和元年度ピーマン実績検討会」を開きました。



生産者や市場関係者、関係機関など約110人が出席。JA職員が販売経過や生育状況、令和2年度の生産方針について説明しました。ここ数年は6月が高温で少雨傾向だったため、7月の尻腐れ果が多発。今年度は天候にも恵まれたことから尻腐れ発生が少なく、出荷量前年度対比113%を確保することができ、昨年11月末時点の販売実績が約4億1,500万円で2年連続4億円超えとなりました。

ピーマン専門部の晴山文佳委員長は「皆さんの努力のおかげで売上5億円も見えてきた。来年度も健康に気をつけ、知恵を出し合い頑張ろう」と話しました。

◆アスパラガス

12月17日、花巻市で「令和元年度アスパラガス実績検討会」を開きました。



生産者や市場関係者、関係機関など約80人が出席。JA職員が販売経過や生育状況、令和2年度の生産方針について説明しました。春の低温、夏の猛暑と厳しい環境の中ではありませんでしたが、出荷実績は出荷量が前年度対比102%、販売額が同比103%を確保することができました。来年度の生産方針については、反収向上対策、生産拡大対策、販売対策の3つの柱を掲げ、出荷量200tの販売額2億円を目指します。

北上地域アスパラガス専門部の佐藤祥行部長は「倍増運動に取り組んでから8年が経った。今後も面積拡大の推進を続け、4地域がワンチームとなり取り組んでいこう」と話しました。

園芸

おいしいラ・フランスをプレゼント

花巻地域果樹生産部会石鳥谷支部は、花巻市石鳥谷町内の5カ所の保育園と石鳥谷町保育協会に640個のラ・フランスをプレゼントしました。



12月13日には八重畑保育園で贈呈式を開催。同支部や同協会、JA職員などが訪問し、生産者が園児代表2人に手渡しました。早速おやつで味わい、園児は「とっても甘かった。お家でも食べたい」と笑顔で話しました。

ラ・フランスの贈呈は、同支部が地元産果実のPRと、おいさを子どもたちに知ってもらう目的で「西洋ナシ消費拡大事業」を実施して8年目。現在、農家30戸が8.3haで栽培しています。生産者の藤原敬悦さんは「今年は台風の影響で落果するなど大変な1年だったが、おいしいものができた」と話しました。

畜産

第12回全国和牛能力共進会決起大会

（公社）全国和牛登録協会岩手県支部は11月28日、盛岡市の姫神ホールで「第12回全国和牛能力共進会決起大会」を開きました。



同日は、県内の生産者や関係機関など約360人が出席。「鹿児島県の和牛の現状と全共への取り組み」や「全共が和牛の改良に果たす役割について」などの講演が行われ、全共への理解と意識を高めました。

全共は、和牛の能力と斉一性の教場を目指して5年に1度開催される全国規模の共進会です。「第12回全国和牛能力共進会」は、鹿児島県霧島市で令和4年10月6日から5日間にわたり、開催される予定。「和牛新時代 地域かがやく和牛力」をテーマに掲げ、全国から選りすぐりの種牛と肉牛が集まり、日本一を目指します。

園芸

最優秀賞と農林水産大臣賞に輝く!

果樹部会若手りんご生産者グループは、「2019いわて純情りんごコンテスト」総合の部で最優秀賞と農林水産大臣賞に輝きました。

同コンテストはJA全農いわてが毎年開き、県内のりんご生産者や生産組織が出品しています。2部に分けて審査を行い、今年度は第1部の「ジョナゴールド」が合計34点、第2部の「シナノゴールド」と「ふじ」で合計22点の出品がありました。糖度や大きさ、玉ぞろいなどを9人の審査



果樹部会若手りんご生産者グループ
「THE RINGO STAR」

地域の園児や児童を対象とした青空教室や出前授業、収穫体験活動などを通じて、りんごの歴史や栽培について広めています。



員が審査。昨年度まではJAいわて中央りんご部会が9年連続で最優秀賞を受賞していましたが、満を持して最優秀賞の受賞



を果たしました。今回の受賞は、糖度や硬度、外観などの品質が優れていることが総合的に評価されました。

12月18日には、岩手県農業研究センター（北上市成田）で表彰式が開かれ、小原忍会長と浅沼慶宣さんが表彰状を受け取りました。

受賞できて非常にうれしい。高品質なりんごを生産していることが証明できた。今年も品質の良いりんごを栽培していく。

果樹部会若手りんご生産者グループ
小原 忍会長



米穀

「銀河のしずく」を味わおう! 保育園でおにぎり教室を開催



JAいわて花巻や花巻市、岩手県などで組織する花巻市農業振興対策本部米穀振興部会は11月21日、ぴっころ保育園（同市諏訪町）で県オリジナル水稲品種「銀河のしずく」を使ったおにぎり教室を開きました。

JAや市、県南広域振興局花巻農林振興センターの職員と生産者、いわて純情むすめ7人が同園を訪問し、4・5歳児25人が参加。県が認定する「銀河のしずく生産者マイスター」で花巻地域銀河のしずく栽培研究会の高橋春雄会長が、白くほのかな甘味がする「銀河のしずく」の特徴を説明しました。園児たちは素手で

おにぎり作りに挑戦。手に付くご飯粒に苦戦しながらも大人に手伝ってもらい、具なしと梅干し入りの2個のおにぎりを作りました。おにぎりは給食とともに食べ、地元産米のおいしさを味わいました。

おにぎりを素手で作ったのが初めてという照井萌愛ちゃん（5）は「手がべたべたしたけど、楽しかった。初めて食べた銀河のしずくはおいしかった」と笑顔を見せました。高橋会長は「この体験は良い経験になったと思う。おいしい銀河のしずくをたくさん食べて、そのおいしさを親にも伝えてほしい」と願いました。



かがやく女性部

地元産野菜を味わって！ 「みんなで夕ごはんinちょボラ」で料理を提供

女性部とおのよつば地域支部遠野地区は12月4日、遠野市社会福祉協議会が主催する食堂「みんなで夕ごはんinちょボラ」で、料理を振る舞いました。

食堂は毎月1回、同市のボランティア・市民交流サロン「ちょボラ」で開催。市内の各女性団体が交替で料理を振る舞い、住民や子ども、協議会職員、ボランティアが食卓を囲み、息抜きできる場所となっています。



心を込めて調理する部員たち

昨年度、同地区は同協議会に声をかけられて初めて料理を提供し、今回が2回目の提供となりました。部員が栽培したカボチャやニンジン、ジャガイモ、タマネギを使った「母ちゃんカレー」や「人参の白和え」など5品を調理し提供。約50人が地元産野菜の料理に舌鼓を打ちました。昆野裕子支部長は「子どもの成長を考えてメニューを作成した。地元の野菜をたくさん食べてほしい」と話しました。



「母ちゃんカレー」をほおぼる子ども

農業を拓く協同組合 JAと農業

監修=JCA
(日本協同組合連携機構)

JAグループの基本的な取り組み

2019年3月に開催した第28回JA全国大会では、3つの危機を突破し、「組合員とともに農業・地域の未来を拓く」ことを取り決めました。3つの危機とは、担い手不足や高齢化などの「農業・農村の危機」、JA組織基盤の弱体化と事業取扱高の減少という「組織・事業・経営の危機」、`わがJA、意識の低下などによる「協同組合の危機」です。

これに対する、JAの基本的な姿勢は「協同組合の原点に立ち返り、組合員の『声』に基づく運営を徹底する」ことにあります。JA役職員は日常的な対話を通じて組合員との相互理解を深め、自己改革の取り組み実績等を伝えるとともに、組合員の評価や新たなニーズを把握します。そして、地域の特性を生かして、創意工夫を凝らした個性ある取り組みを展開します。

語句解説

【JA全国大会】(じえいゐぜんこくたいかい)

3年に1度、全国のJAの代表者が集まり、JAグループの目指す方向などを決定する大会。第28回大会では、自己改革の基本目標である「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」へのさらなる挑戦と、それを支える持続可能な経営基盤の確立・強化を重点課題として、「創造的自己改革の実践」を提起しました。

第28回JA全国大会 創造的自己改革の実践



園芸 期待と信頼得られる産地へ 「花き生産者の集い」を開催！



JAと花巻地域花き生産部会は12月5日、花巻市で「花き生産者の集い」を開きました。

品目別の検討会で、部会員やJA、関係機関、市場関係者など61人が参加しました。JAの担当者が今年度の花巻地域の販売経過や令和2年度花き生産販売方針について報告。昨年10月末時点の花巻地域の販売実績が数量、販売額ともに前年度より高いことや品種が多い品目については、品種の整理が必要であることも確認しました。来年度は、リンドウやカンパニュラなどの花き生産拡大、企業的花き作経営体の育

成、部会を核とした花き産地の再強化、花巻産花き利用拡大の4項目を重点活動項目に掲げます。オリジナル性と存在感を持ち、実需者から期待と信頼を得られる花き産地づくりを推進していくことを確認し、意気込みを新たにしました。

高橋誠部会長は「品質の高い花を栽培し、全国へ発信していこう」と呼び掛けました。高橋勉組合長は「天候に左右された年であったが、皆さんのおかげで相対的に昨年より良かった。農業の販売高を高めるためにも複合的な経営の普及をしていく」と話しました。



園芸 産地維持と発展に向けて重点活動項目を確認

JAと西和賀花卉生産組合は12月10日、西和賀町で「生産者の集い」を開きました。

組合員やJA、関係機関、市場関係者など54人が参加しました。JAの担当者が今年度の西和賀地域の販売経過や令和2年度の生産販売方針について報告。昨年10月20日時点の西和賀地域の販売経過は数量が前年度を上回りましたが、販売額は計画の2億9,000万円に及びませんでした。このことから、リンドウを中心品目とし、生産拡大の中でもお盆需要

期である8月の出荷量の増量を目指していくことを呼び掛けました。

来年度は、生産力と農業所得の向上や花卉生産組合組織の強化、流通販売対策を重点活動項目に掲げ、これまで培った技術を次世代に繋ぎ、産地維持と発展を目指していくことを確認しました。



リンドウを1人5a以上新改植を行い、西和賀の花をたくさん消費者に届けよう！

西和賀花卉生産組合 高橋文昭組合長

各グリーンセンター定休日

1月・2月の定休日と営業時間は次の通りです。ご確認の上ご来店ください。

※定休日と営業時間はそれぞれの店舗によって異なりますのでご確認ください。
※右記のほかに2月25日(火)が第4四半期決算棚卸しのため休業します。

	1月の定休日	2月の定休日	営業時間
花巻	毎週日曜日・祝日	毎週日曜日・祝日	8:30~17:00
石鳥谷	1/11(土)/1/25(土)	2/8(土)/2/22(土)	
大迫	土・日・祝日	土・日・祝日	
東和	1/18(土)	2/1(土)/2/15(土)	
北上	毎週日曜日	毎週日曜日	
西和賀	土・日・祝日	土・日・祝日	
遠野	1/11(土)/1/25(土)	2/8(土)/2/22(土)	

●お問い合わせ先：営農部生産資材課 ☎ 0198-22-6192 または、最寄りのグリーンセンターまで

～収入保険でこれまで以上の安心を～

農業経営のさまざまなリスクに対応します!

<p>自然災害で減収</p>	<p>市場価格が下落</p>	<p>災害で作付け不能</p>	<p>病気で収穫不能</p>
<p>倉庫の浸水被害</p>	<p>取引先の倒産</p>	<p>盗難や運搬中の事故</p>	<p>為替変動で大損</p>

〈ちょっと待った! 確定申告が終わったら〉

青色申告書類をしまってしまうその前に、お近くの農業共済組合で補償内容の試算をしてみましょう。試算は令和3年開始の補償内容になります。

【試算に必要な書類】

- ・確定申告書B表(第1表)
 - ・青色申告決算書(農業所得用)(P1~P4)
- 平成28年から令和元年の4年分 ※青色申告実績が1年以上あれば加入できます。

〈価格下落や大規模災害に備えて〉

収入保険は自然災害だけでなく、価格の低下も含めた収入減少をサポートする保険となっています。また、新しい作物を導入したい、販路を拡大したいなどチャレンジする農業者を支援する仕組みとなっていますので、ぜひお気軽に農業共済組合までお問い合わせください。

《収入保険加入者の声》

<p>つなぎ融資があったので、営農資材を購入するための借入金の返済ができた。</p>	<p>災害で倉庫が浸水。農作物が売り物にならなくなった。でも、収入保険なら安心。</p>	<p>野菜は価格低下の補てんしかなかった。災害で出荷できないときも、収入保険なら安心。</p>
--	--	---

- これまで、農業共済やナラシ対策、野菜価格安定制度とバラバラに申請していたが、収入保険一本で良いので手続きが簡素化された。
- ナラシ対策は、統計データを用いて収入減少を補てんするので実感に合わない。一方収入保険は、自分の売り上げを用いるので、経営実態に合った補てんがされる。
- ナラシ対策と農業共済のセット加入よりも、収入保険の掛金が安くなった。
- 積立は積んだ金額の4倍の金額が保険金として支払いを受けられるのは魅力がある。

お問い合わせ：岩手県農業共済組合

中部地域センター ☎0198-23-5201 / 東南部地域センター ☎0198-62-2556

6次産業化プランニング講座を開催!

6次産業化に必要な商品開発や販路拡大などの基礎知識の習得と経営管理力の向上を目的としたカリキュラムを通じて、6次産業化の実践に向けたビジネスプランを作成する講座を全5回開催します! ご興味のある方は、ぜひお申込みください。

【日時】 2月6日～3月5日までの毎週木曜日(全5回) 午後2時～6時

【会場】 花巻市生涯学園都市会館(まなび)2階 第1学習室

【対象】 6次産業化に興味がある農業者、6次産業化実践者など ※原則として全5回参加できる方

【定員】 30名(定員になり次第、受付を終了) ※花巻市内に住所を有する個人または市内企業に限り

【参加料】 無料

【お申込み方法】 花巻市のホームページに掲載している申し込み書にて(FAX、Eメール、電話可)

【お申込み締切日】 1月31日(金) 主催：花巻市

内 容

- 第1回：6次産業化ビジネスの創り方
 - 第2回：マーケティングと販路拡大戦略手法
 - 第3回：自社のブランド開発と価値の伝え方
 - 第4回：経営力を高めるために
 - 第5回：6次産業化ビジネスプランのプレゼンテーション
- ※講師は、(株)キースタッフが務めます

●お申込み・お問い合わせ●

花巻市地域振興部定住推進課6次産業推進室(担当:長洞) ☎0198-24-2111(内線436) / FAX 0198-24-0259 E-mail:teiju@city.hanamaki.iwate.jp

わいわい子育てフリースペース もうすぐ節分! 恵方巻き作り

■日時

1月24日(金) 午前10時～正午

■参加費

300円(1家族あたり)

■場所

農協野田神社「洗心館」
(JA本店北側隣り)

●お問い合わせ

企画部組織広報課

☎0198-29-4011

●理事会だより

次の議案について審議され、全議案議決されました。

●第12回理事会 開催日：12月20日(金)

■決議事項

- 第1号議案 子会社の合併について
- 第2号議案 (株)JAグリーンサービスタウンの役員候補者の追加推薦について
- 第3号議案 職制規程の改正について

●監事会だより

次の事項について協議されました。

●第11回監事会 開催日：12月20日(金)

■協議事項

- (1) 令和元年度第2回常勤理事と監事との定期的会合の開催について

ぼらーの 広場

ぼらーの広場は、読者の皆様との交流の場です。皆様からテーマにちなんだお便りを募集し、紹介しています。

今月のテーマ

便利になったなあと思った瞬間

投稿を頂いた方の中から
抽選で、今月は

花巻黒ふだう牛
(300g)

をプレゼント!



釜石が実家の私。高速道路が釜石まで繋がり、孫を連れての帰省があつという間に!とても便利になりました。(花巻市・こちゃん)

携帯1つでネットショッピングができること!おむつや重い物をインターネットで注文すると家まで届くので、ありがたいです。(北上市・ここ)

旧式の糶摺り機を新しく買い換えました。糶はバキューム式のため私の仕事である糶運びがいらなくなり、とても便利です。(西和賀町・ユカ)

残りご飯を「チン!」と電子レンジで温めてから食べるほっかほっかのご飯。昔はお湯をかけて食べたもんだなあ。(北上市・ひっこばあ)

いろいろな支払いができるATMの設置やこだわりのスイーツなどがあり、コンビニができて便利になりました。(花巻市・あけつち)

スマートフォンに替えて半年。東京で働いている息子と顔を見ながら話ができ、遠く離れても会話やLINEができて便利です。(花巻市・ガーベラ)

来月のテーマ(3月号掲載)「私がしている小さなエコ」応募締切/2月10日(月)消印有効

テーマにちなんだエピソードを募集します。

あなたが普段の生活で行っている小さなエコについて、エピソードと共に教えてください。

応募方法：①テーマにちなんだお話②郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号③ペンネーム④JAや広報誌に関するご意見・ご感想を記入の上、はがきまたはメールにてご応募ください。

右記のQRコードからのご応募もできます。

※投稿頂いた中から内容を誌面に掲載させていただきます。ペンネームが無い場合はイニシャルでの掲載になります。

●はがき：〒025-8504 花巻市野田316-1 JAいわて花巻組織広報課「ぼらーの広場」宛

●メール：polano@jahanamaki.or.jp ●当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

5名様にプレゼント!

岩手早池峰
のむヨーグルト



JAいわて花巻
応募フォーム

https://www.jahanamaki.or.jp/entry/index.php

私が先生 あなたも先生

Point!

ゆっくりと時間をかけて煮るのがポイント！
味は1回で濃く付けずに、少しずつ調えると良いです。
保存しておいた食材を入れて作るのもオススメです！



今月の先生

高橋 夕美子さん

西和賀町沢内在住。得意料理は山菜料理・煮しめ・納豆汁。郷土料理を中心に、料理全般を指導している。女性部西和賀地域支部川舟支部の班長を務めている。

凍み大根の煮しめ

材 料 (4人分)

- 凍み大根……………2本
- ニンジン……………小1本
- こんにゃく……………1/2丁
- 高野豆腐……………2枚
- ちくわ……………2本
- ① (またはさつま揚げ)
- たけのこ……………8本
- フキ……………8本
- ささぎ……………8本
- サラダ油……………適量
- しょう油……………適量
- ② エコープかつおだし…適量
- 料理酒……………適量
- 塩……………少々

作り方

- 1 凍み大根をお湯でゆっくりと戻し、食べやすい大きさに切る。
- 2 サラダ油をひいたフライパンで、凍み大根を炒める。
- 3 水をたっぷり入れた鍋で、凍み大根をゆっくりと時間をかけて煮る。やわらかくなったら、①を入れる。
- 4 ②を入れて、調整をしながら味を調える。

あなたも先生になりませんか？

JAでは、「生活福祉活動リーダー」を随時募集しております。あなたの知識や技術を地域の方々に伝えてみませんか？詳しくは、お問い合わせください。

- お問い合わせ 企画部組織広報課
☎0198-29-4011

「生活福祉活動リーダー」とは？

JAでは、生活の知恵や伝承技術、芸術文化活動や健康増進に関わる活動の指導などを行っている方を「生活福祉活動リーダー」として委嘱しています。「生活福祉活動リーダー」には料理のほか、家庭菜園や体操、レクリエーション、生け花など幅広い知識・技術を持った約110人が登録。研修会や講習会などで講師を務めています。農家組合や青年部、女性部などの組合員組織が「生活福祉活動リーダー」を活用して研修などを行う場合、講師料はJAが負担し、皆さまの地域のくらしの活動をサポートします。

2020年、新しい年を迎えた。今年は「子年」。私は年男でもあり、厄年でもある。前厄の昨年は、年末までいろいろあり。今年こそは、健康を第一に過ごしたいと切に思う。そして、私は今年をどんな1年にしたいのだろうか。そんな想像をすると胸が高鳴る！素晴らしい1年に。本年もよろしくお願致します。

「佐藤」

皆さんのお宅には、JAオレジナル2020年歳時記カレンダーは届いていますか。昨年までとは違い、JA管内のイベントなどの紹介をしています。たくさんの方々に協力していただき、完成させることができました。是非、各地域のイベントに足を運び、JA管内の広さを感じてください。

「木村」

明けましておめでとございます。今年は、さまざまなことに興味を持ち、視野を広げていけるよう普段の生活から心がけていきたいです。そして、昨年以上に多くの場所を足を運び、取材を通して多くの方に情報を発信していきます。本年もよろしくお願致します。

「安達」



編集後記

From Editor's